

第2章 呉市を取り巻く状況

- 2.1 呉市の魅力と強み
- 2.2 呉市の都市づくりを取り巻く状況
- 2.3 都市づくりに対するニーズ
- 2.4 現行計画の振り返り

第1章

第2章

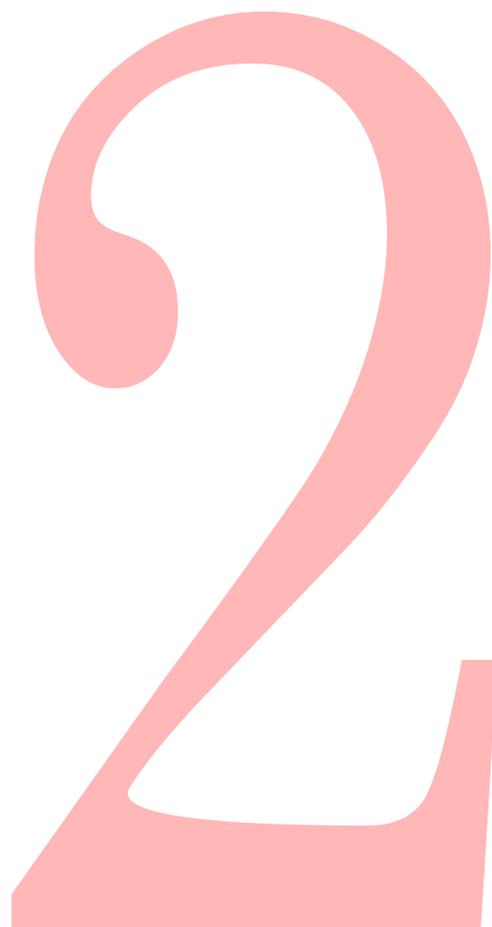
第3章

第4章

第5章

巻末資料

第2章 呉市を取り巻く状況

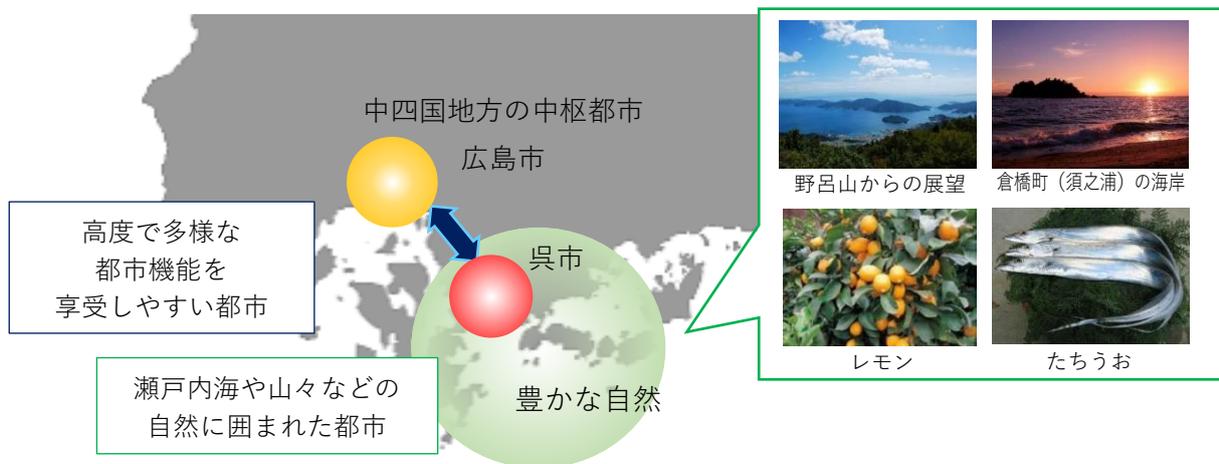


2.1 呉市の魅力と強み

(1) 豊かな自然と中四国地方の中核都市に近接する都市

呉市は、穏やかな瀬戸内海と野呂山、灰ヶ峰を始めとした山々が連なる、風光明媚な自然に囲まれており、マリンスポーツや山歩きなどを身近で体験することができます。また、レモンなどの柑橘類や牡蠣、たちうお、ちりめんなど、その自然の恵みを生かした農水産物が多くあります。

一方で、呉市は、市内に一定の都市機能を有する都市であり、中四国地方の中核都市圏である広島圏域の一翼を担っています。また、その中核都市である広島市に近接していることから、高度で多様な都市機能を享受しやすい環境にあります。



(2) 旧海軍の歴史とものづくりの技術が根付く歴史ある都市

呉市では、明治22年の呉鎮守府開庁を契機として、本格的な市街地の形成が進められ、当時の海軍が築いた水道施設や港湾施設、病院などの都市基盤は、市民生活に欠かせないものとして現在も活用されています。その後、終戦による海軍の解体とともに、昭和25年の平和産業港湾都市への再生を目指す「旧軍港市転換法」の制定により、造船、鉄鋼、機械金属、パルプ産業等の企業が進出し、瀬戸内有数の臨海工業地帯としての基盤を確立し、広島県の産業をけん引してきました。また、昭和29年に海上自衛隊呉地方総監部が置かれ、海上自衛隊と呉市は、市民・地域との交流や観光、災害時の支援などで密接につながっています。

平成17年4月には、これらの歴史などを紹介する呉市海事歴史科学館（以下「大和ミュージアム」といいます。）が開館、また、平成28年には「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動を体感できるまち～」として日本遺産に認定されるなど、旧海軍ゆかりの観光資源を多く有しています。

[大和ミュージアム]



[ものづくり産業]



(3) 医療機関の充実した都市

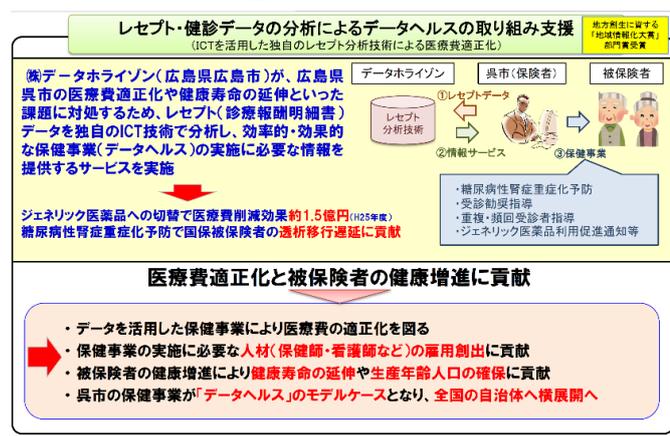
呉市は、豊富な医療資源に恵まれた都市であり、“いざ”というときに安心できる医療提供体制が確保されています。併せて、検診の受診促進や全国に先駆けてデータヘルスによる予防・健康づくりを推進するなど、市民の健康維持・増進を図る取組を進めています。

[病院施設数]

区分	病院施設数 (実数)	病院施設数 (人口10万人対)
呉市	26	11.7
広島県	237	8.5
全国	8300	6.6

資料：厚生労働省「令和元年医療施設調査」を基に作成
 ※病院は病床数 20 床以上の入院施設（病棟）を持つものを指す

[データヘルスの取組]



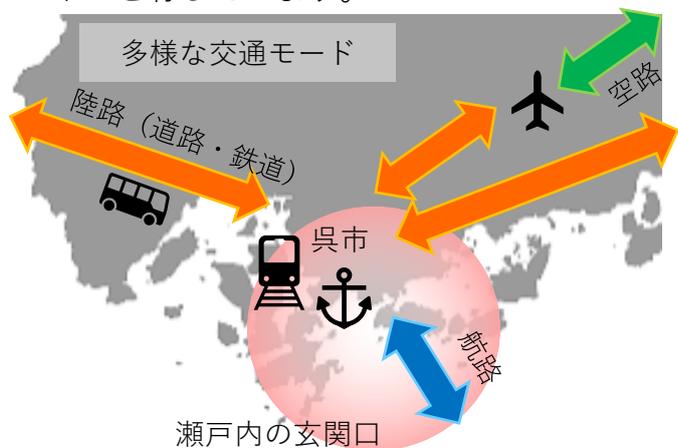
資料：総務省「ICT地域活性化ポータル」

(4) 多様な交通モードを有する都市

呉市では、充実した社会資本が早期に整備され、これまでの取組により、広島呉道路や東広島・呉自動車道による広域的な道路ネットワークを有するとともに、代替性・多重性が一定程度確保された道路ネットワークが整備されています。また、鉄道（JR呉線）は、市内を横断するように整備され、市民の広域的な移動を支えています。そのほか、東広島・呉自動車道の開通により、空の玄関口である広島空港への近接性を有するほか、重要港湾である呉港を始めとした海洋拠点や航路を有しており、瀬戸内の玄関口として広域的な交流を促すポテンシャルを有しています。

平成30年7月豪雨災害においては、このような多様な交通モードを生かし、広島呉道路における災害時BRT^{※1}の運行や東広島・呉自動車道などによる広域迂回の実施、航路を活用した代替輸送に取り組みました。

また、この特性をまちづくりに波及させるための先行的な取組として、交通ターミナル機能の強化を含めた「呉駅周辺地域総合開発」を推進しています。



※1 災害時BRT：災害により一般車両が通行止めとなった高速道路や自動車専用道路を路線バスなど指定されたバスを通行可能とし、混雑した他の道路の通行を回避することにより速達性や定時性を確保する方法

2.2 呉市の都市づくりを取り巻く状況

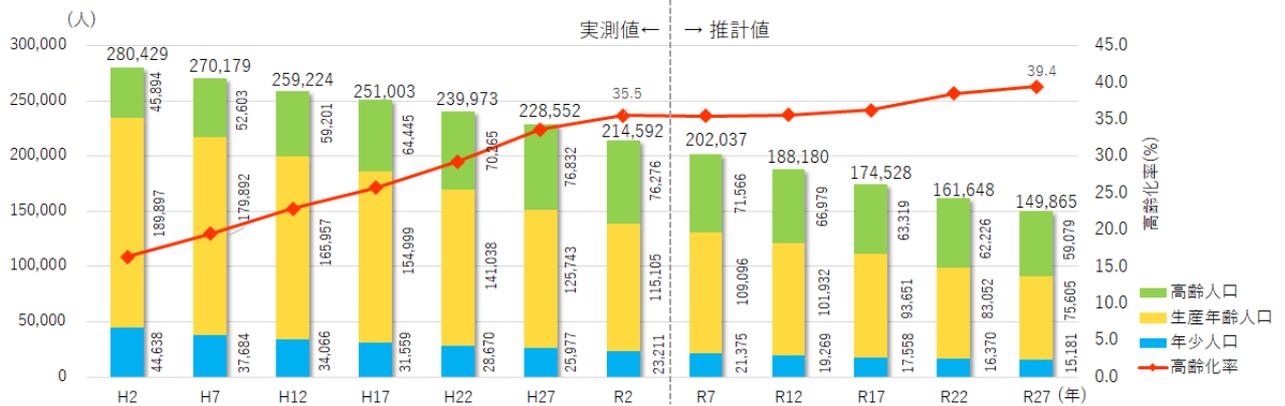
(1) 人口

<人口減少・少子高齢化が進展しています>

呉市の人口は、減少を続けており、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研 究」といいます。）の推計によると令和27年には、令和2年と比較して約30%の人口減少が見込まれます。また、年齢3区分全てで人口が減少することが想定されています。

高齢人口は平成27年にピークを迎えたものの、高齢化率は増加傾向にあります。また、年少人口は減少しており、今後も少子高齢化が進展する見込みです。

[年齢3区分別人口動向と将来人口推計]



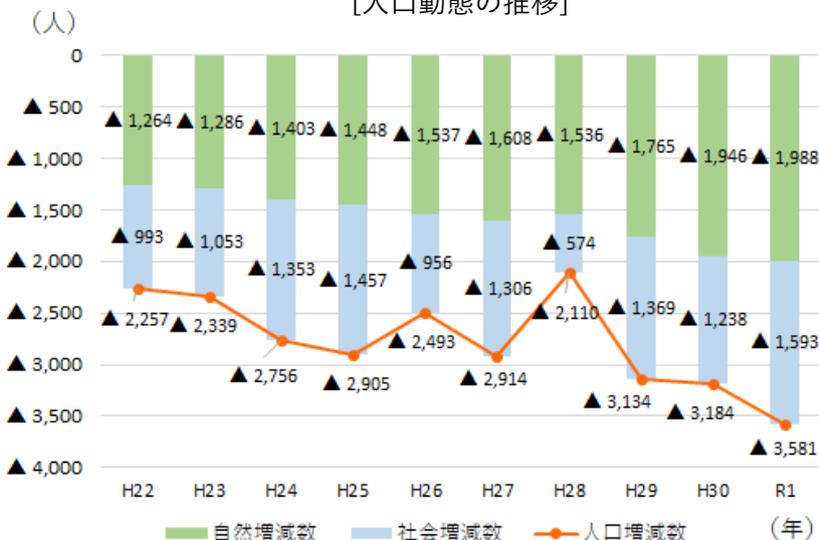
資料：総務省「国勢調査（平成2年～令和2年）」、社人研「日本の地域別将来推計人口（令和7年以降）」
 ※人口は現在の市域で算出。令和2年以前は、総人口と各年齢区分の合計を一致させるため、年齢不詳者を各年齢区分により按分し集計

<自然減・社会減となり、減少傾向が続いています>

人口動態を見ると、出生数と死亡数の差を示す自然動態は、少子高齢化の進展などによって、自然減が拡大傾向にあります。

また、市外との転入と転出の差を示す社会動態も、社会減が常態化しており、仕事や通勤・通学、婚姻関係などを理由として20歳から29歳までの若年層の広島市や東広島市、東京都特別区への転出が多くなっています。

[人口動態の推移]



資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

[年齢別転出超過先上位3地区]

(単位：人)

	広島市			東広島市			東京都特別区		
	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女
総数	▲569	▲271	▲298	▲191	▲119	▲72	▲190	▲100	▲90
0～9歳	▲31	▲18	▲13	2	2	0	▲10	▲7	▲3
10～19歳	▲7	▲1	▲6	3	▲2	5	▲17	▲11	▲6
20～29歳	▲295	▲161	▲134	▲100	▲64	▲36	▲109	▲62	▲47
30～39歳	▲66	▲48	▲18	▲30	▲23	▲7	▲26	▲10	▲16
40～49歳	▲48	▲15	▲33	▲29	▲14	▲15	▲20	▲8	▲12
50～59歳	▲14	▲12	▲2	▲3	▲3	0	▲1	1	▲2
60歳以上	▲108	▲16	▲92	▲34	▲15	▲19	▲7	▲3	▲4

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告
(平成31年1月～令和元年12月)」

[性別・年齢別・理由別転出超過状況(令和元年度)]

(単位：人)

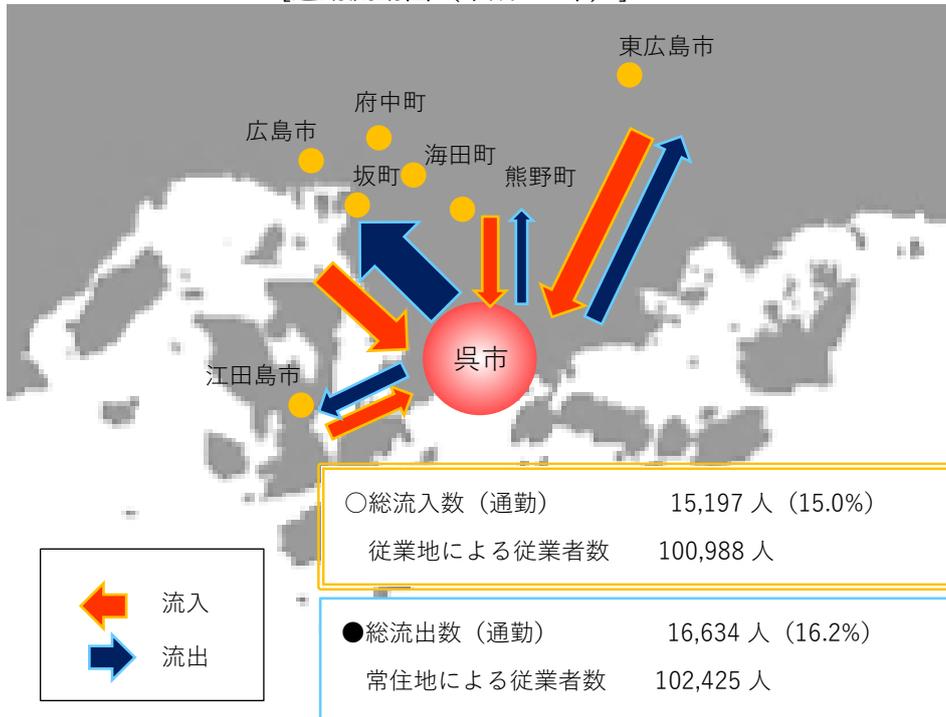
	男性						女性					
	仕事	学校	通勤 通学	婚姻 関係	住宅 事情	その他	仕事	学校	通勤 通学	婚姻 関係	住宅 事情	その他
総数	▲350	▲18	▲113	▲104	▲67	47	▲326	▲35	▲81	▲131	▲46	▲145
0～9歳	▲38	▲1	▲8	▲6	▲11	▲3	▲49	▲8	▲5	▲6	▲1	▲7
10～19歳	35	3	▲10	5	▲6	165	▲5	▲10	1	6	▲1	▲1
20～29歳	▲194	▲20	▲61	▲65	▲22	▲160	▲182	▲9	▲48	▲85	▲7	▲74
30～39歳	▲93	▲2	▲17	▲39	▲16	23	▲59	▲2	▲14	▲35	▲2	18
40～49歳	▲53	1	▲13	▲1	▲6	41	▲24	▲3	▲12	▲7	▲7	6
50～59歳	▲35	▲1	▲2	0	2	15	▲9	▲3	▲3	▲4	▲4	22
60～69歳	21	1	▲1	▲1	▲4	5	3	0	▲1	1	2	▲6
70歳以上	7	1	▲1	3	▲4	▲39	▲1	0	1	▲1	▲28	▲103

資料：呉市資料
※令和元年度広島県「人口移動アンケート
調査(呉市分)」を呉市において集計
※その他には未回答を含む。

<通勤における流出・流入は広島市、東広島市と強い結びつきがあります>

平成27年の通勤における呉市からの流出数は、広島市や東広島市が多く、総流出数は16,634人、流出率は16.2%となっています。また、平成27年の通勤における呉市への流入数は、広島市や東広島市が多く、総流入数は15,197人、流入率は15.0%となっています。

[通勤流動図(平成27年)]



(人)

	広島市	東広島市	江田島市	府中町	海田町	熊野町	坂町
流入数	5,432	4,112	1,204	394	575	1,486	590
流出数	7,689	3,792	971	861	572	671	711

資料：平成30年度広島県都市計画基礎調査、総務省「平成27年国勢調査」

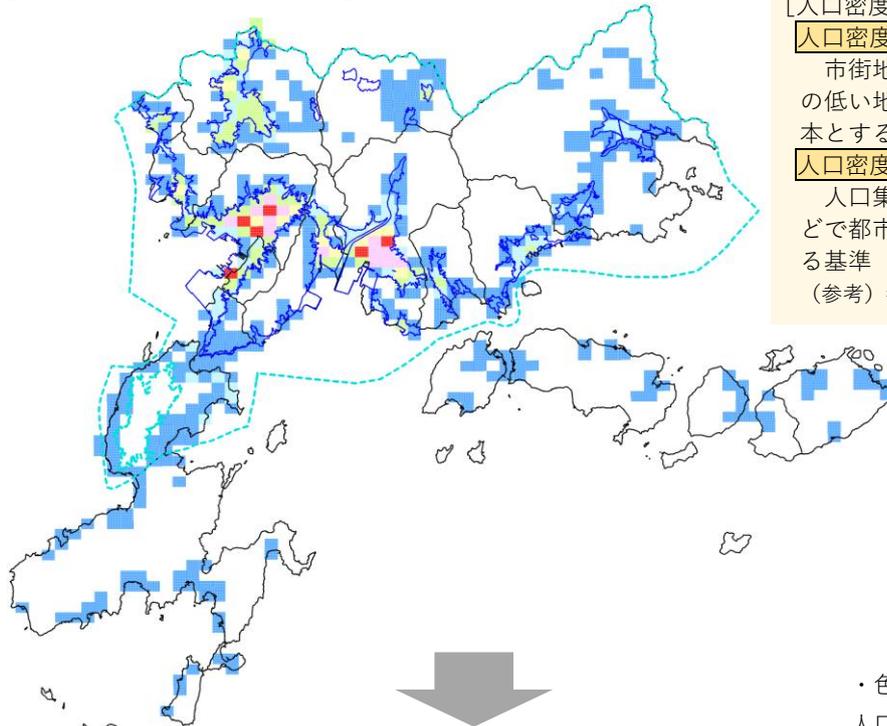
※流出先は中国・四国地方の市町村を対象としている。また、※常住地による就業者数は、従業地「不詳・外国」の人口を除いた値を記載している。

<低密度な市街地が拡がることが想定されます>

市街地内の住宅地においては、人口密度^{※1}が低い地域であっても60人/ha以上を基本とすることが望ましいとされています。平成27年では、中央地区や広地区において、人口密度が60人/ha以上の人口密度を確保している地区が見られますが、令和17年には、両地区において人口密度が大幅に低下することが想定されています。

また、都市計画などで「都市的地域」として取り扱われる人口密度40人/haを下回る、低密度な市街地の面積が増加することが想定されます。

[平成 27 年 人口密度分布]



[人口密度の考え方]

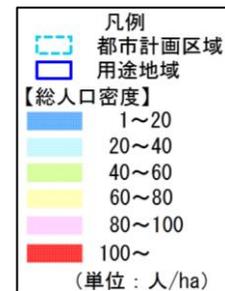
人口密度 60 人/ha

市街地内の住宅地において土地利用密度の低い地域であっても 60 人/ha 以上を基本とすることが望ましいと示されている。

人口密度 40 人/ha

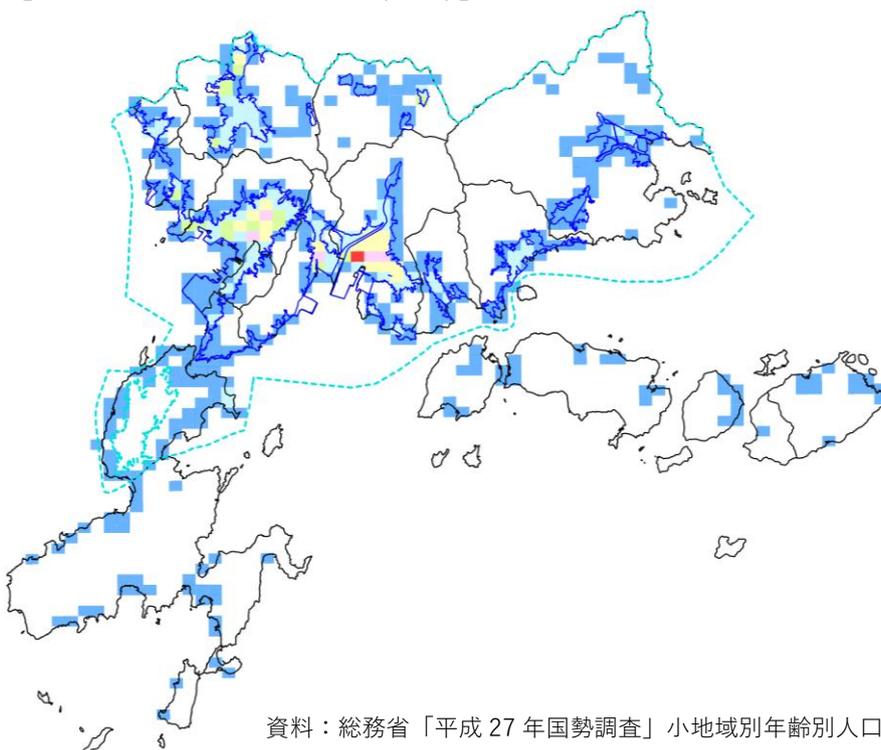
人口集中地区の基準であり、都市計画などで都市的地域の人口として利用されている基準

(参考) 都市計画運用指針 (国土交通省)



・色のついていない箇所は、人口密度 1 人/ha 未満の地域

[令和 17 年 人口密度分布 (推計)]



資料：総務省「平成 27 年国勢調査」小地域別年齢別人口を基に推計

※1 人口密度：人口統計において、単位面積当たりに居住する人の数により定義される数値で、都市化や土地利用の度合いなどの目安となるもの

(2) 産業構造

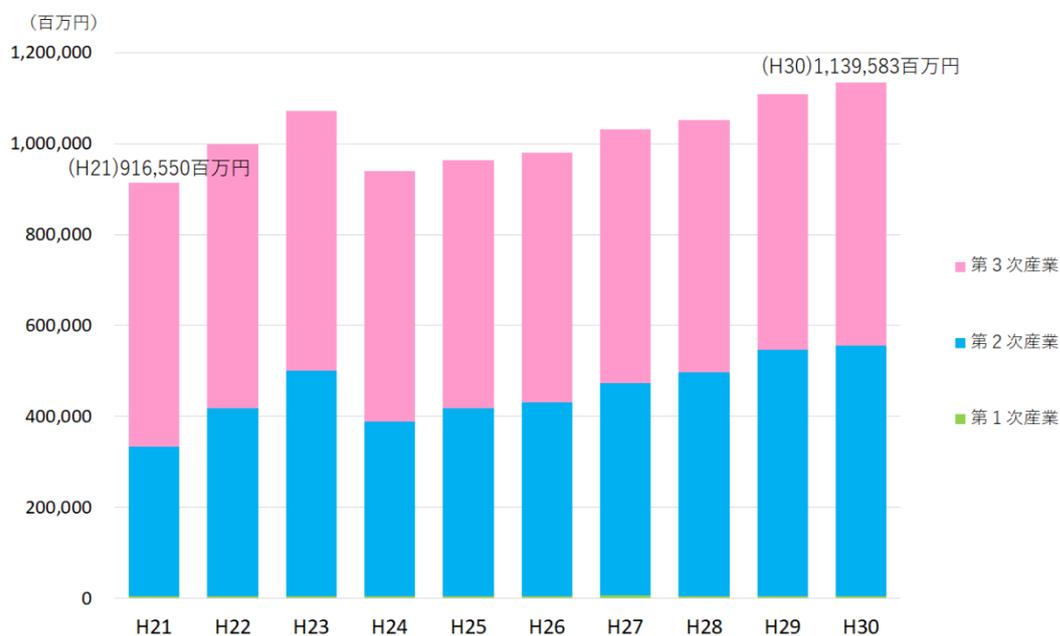
<市内総生産は増加傾向にあり、就業者数は減少傾向にあります>

平成21年から平成30年までの10年間の市内総生産は増加傾向にあります。また、就業者数は、産業3区分全てで減少傾向にあります。

平成27年の産業大分類別の従業者数を見ると、製造業を始めとして、医療・福祉、卸売業・小売業が呉市の雇用を支えています。

一方、令和5年9月末の日本製鉄株式会社瀬戸内製鉄所呉地区（以下「日本製鉄」といいます。）の全設備休止などは、雇用環境の悪化など、今後の呉市の経済に多大な影響を与えることが想定されます。

[市内総生産の推移]

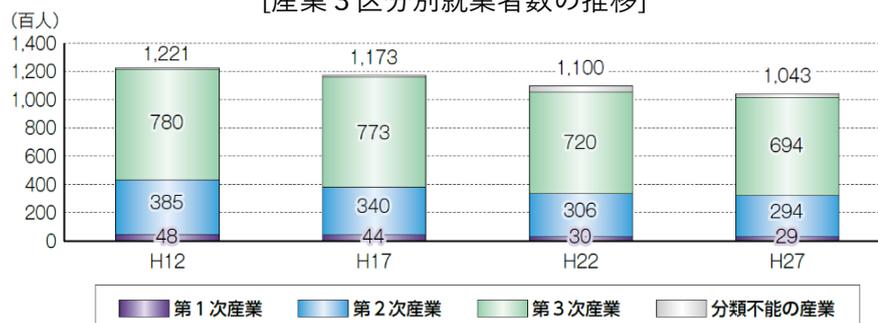


(百万円)

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
第1次産業	4,904	5,139	5,096	5,320	4,825	5,199	5,830	5,534	5,368	5,288
第2次産業	329,420	413,166	496,300	383,380	412,489	425,110	467,922	492,489	541,253	550,792
第3次産業	580,128	579,736	571,322	550,763	546,513	549,005	557,522	553,481	562,289	578,686

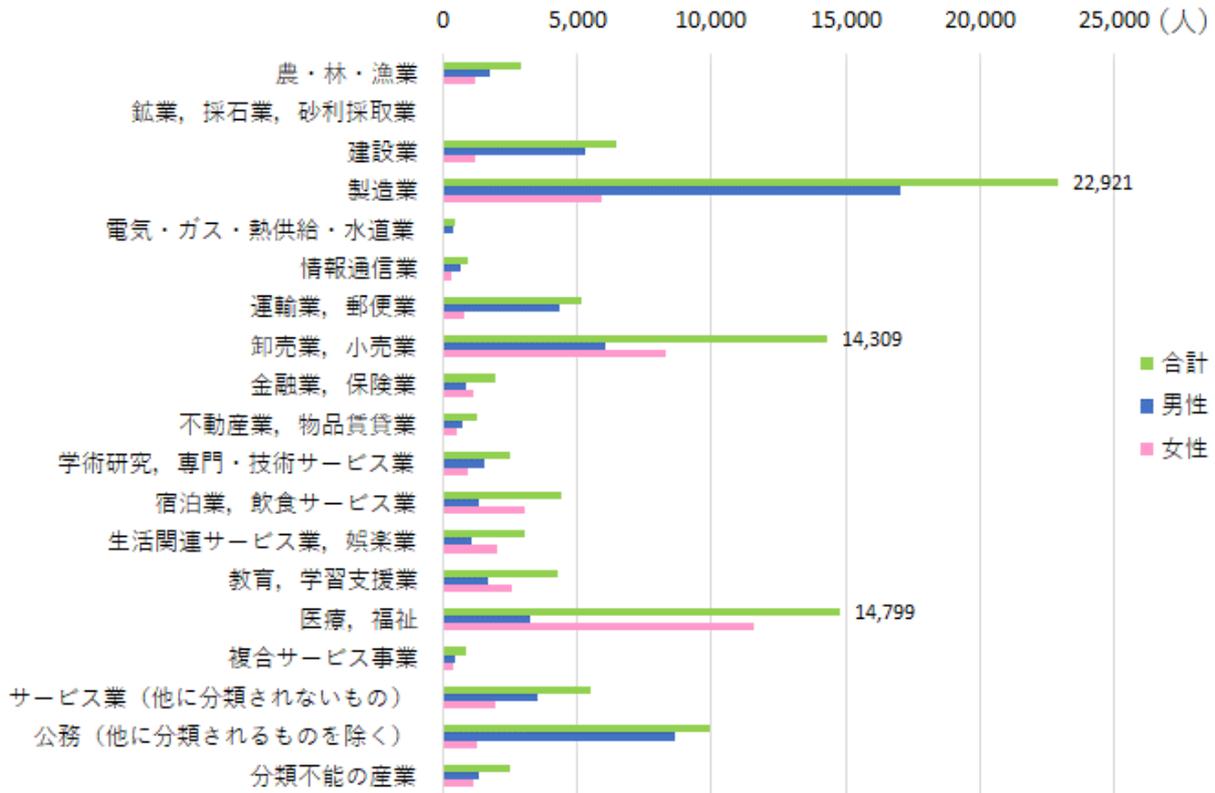
資料：広島県「平成30年広島県市町民経済計算結果」

[産業3区分別就業者数の推移]



資料：総務省「国勢調査」

[産業大分類別の従業者数（平成 27 年）]



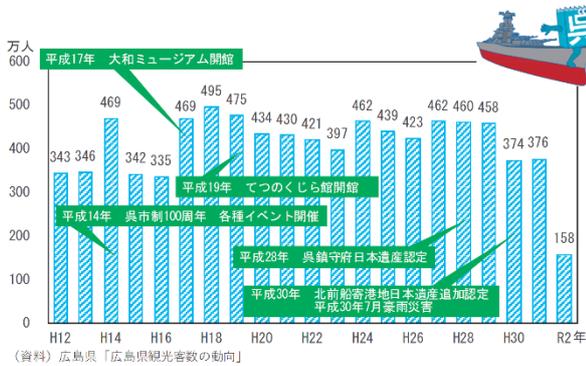
資料：総務省「平成 27 年国勢調査」

<大和ミュージアム開館後，多くの観光客が呉市を訪れています>

呉市は，旧海軍ゆかりの歴史的資源や瀬戸内の美しい自然景観など，多くの観光資源を有しており，平成17年の大和ミュージアムの開館などによって，総観光客数及び観光消費額が大幅に増加しました。

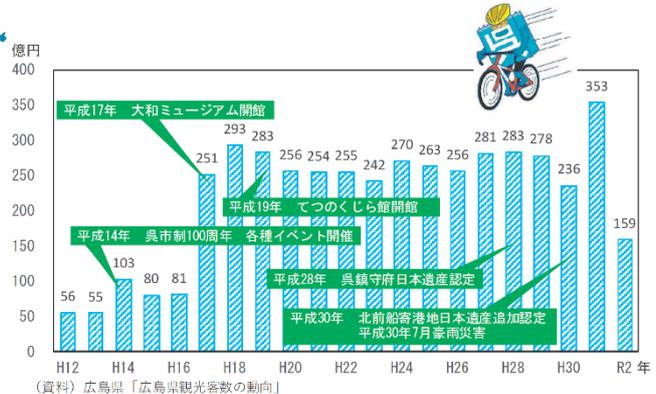
今後，日本製鉄の全設備休止や人口減少などを要因として個人消費が減少し，地域経済に多大な影響を与えることが想定されており，このような状況の中，令和3年9月に呉市観光振興計画を策定し，観光産業を新たな基幹産業へ成長させることによって，地域産業の活力と市民生活の質を維持・向上させていくこととしています。

[総観光客数の推移]



(資料) 広島県「広島県観光客数の動向」

[観光消費額の推移]



※令和元年に観光消費額の算出方法を県内で統一した結果，353億円に増加。令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響により159億年に激減

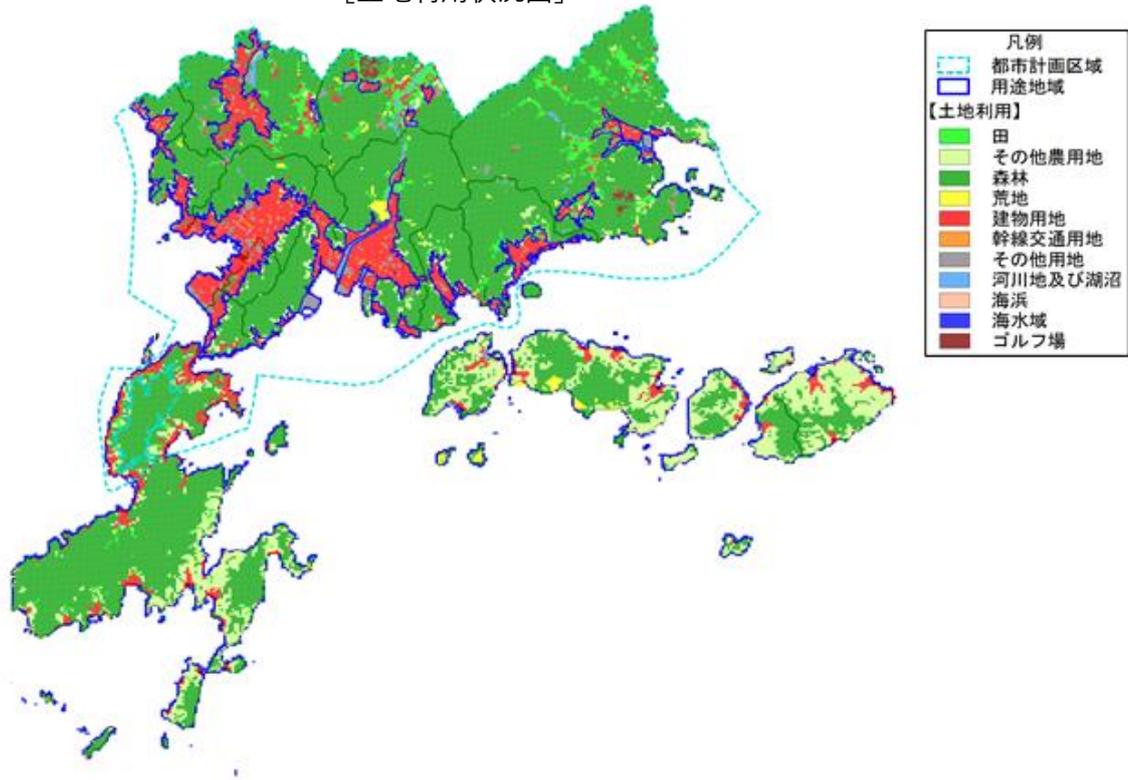
資料：呉市観光振興計画

(3) 土地利用

<山々に分断された平坦地に市街地を形成しています>

市域全体を通じて平坦地が少なく、山々によって地域が分断された地形となっており、斜面地においても都市的土地利用がされています。

[土地利用状況図]

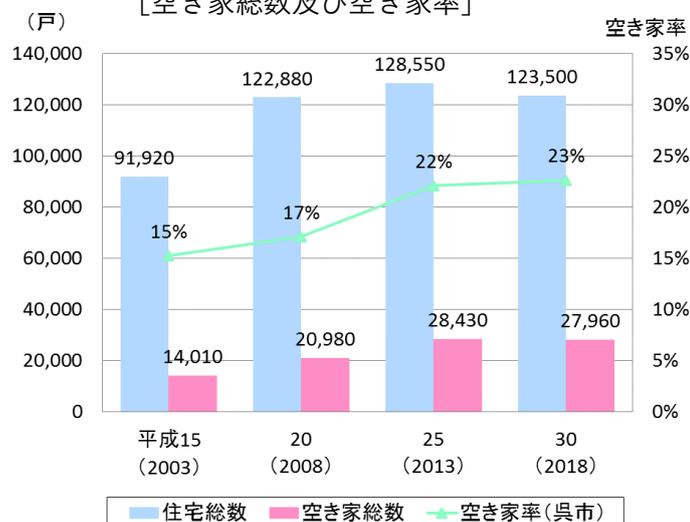


資料：国土交通省「平成 28 年度国土数値情報」

<空き家は増加傾向にあり、今後も増加が懸念されます>

空き家総数は、増加傾向にあり、平成30年の空き家総数は27,960戸となっています。今後の人口減少の進行を踏まえれば、さらなる空き家の増加が懸念されます。

[空き家総数及び空き家率]

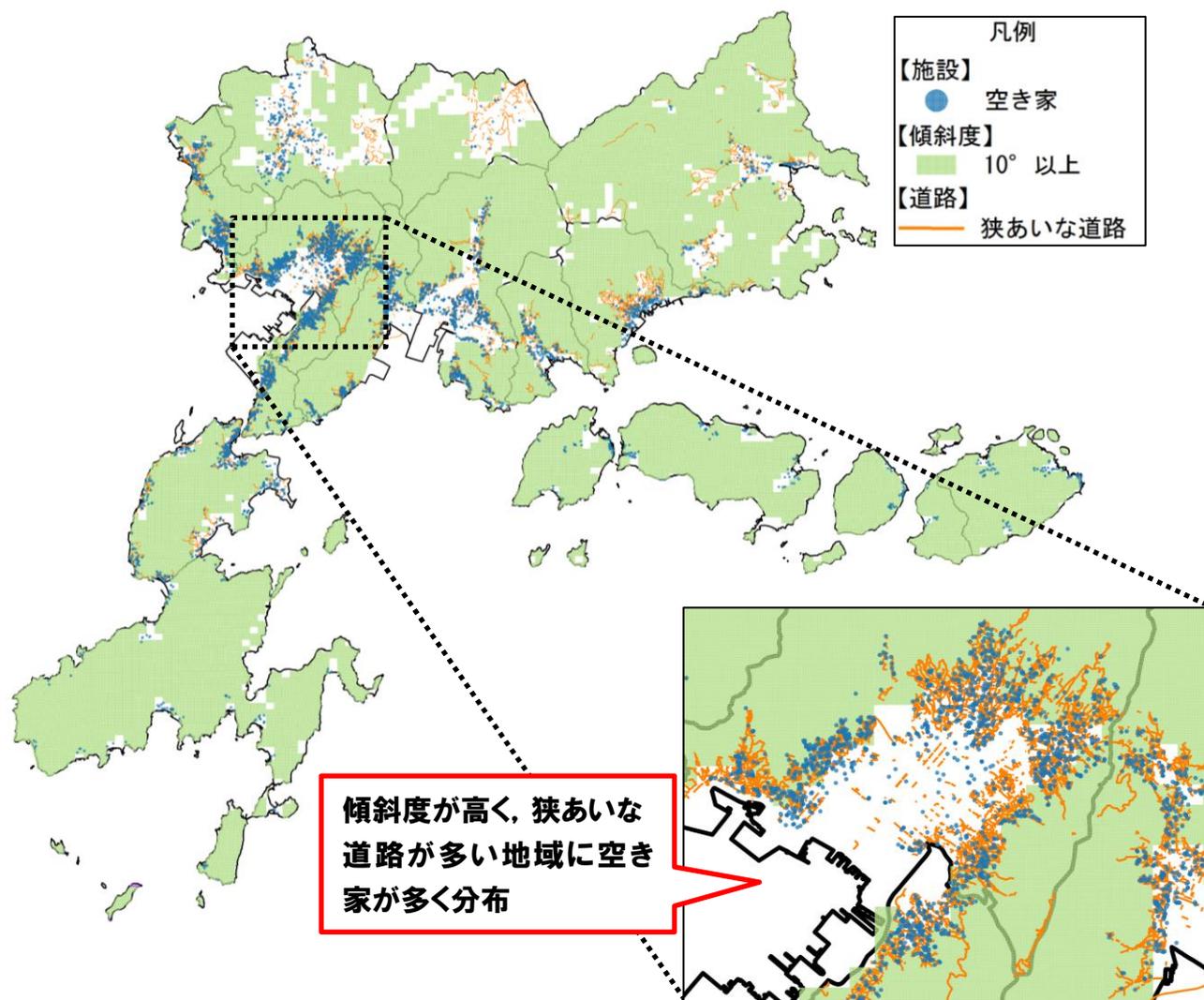


資料：総務省「住宅・土地統計調査」

<傾斜度が高く、狭あいな道路が多い場所に空き家が多く分布しています>

市内には、斜面地などを始めとして幅員が4メートル未満の狭あいな道路が多くあります。呉市全体で空き家が見られ、斜面地などの傾斜度が高く、狭あいな道路が多い場所に空き家が多く分布しています。

[空き家と居住環境の関係（呉市空き家実態調査（平成27年度））]



資料：国土交通省「平成23年度国土数値情報」及び呉市空家等対策計画を基に作成

(4) 都市基盤

<都市間・地域間を結ぶ道路ネットワークの強化を行っています>

呉市では、広島圏都市計画区域及び川尻安浦都市計画区域内で都市計画道路^{※2}を決定しており、改良済みとなる道路の整備率は、令和2年度末で約52%となっています。

▼都市計画道路の整備状況（令和3年3月末現在）

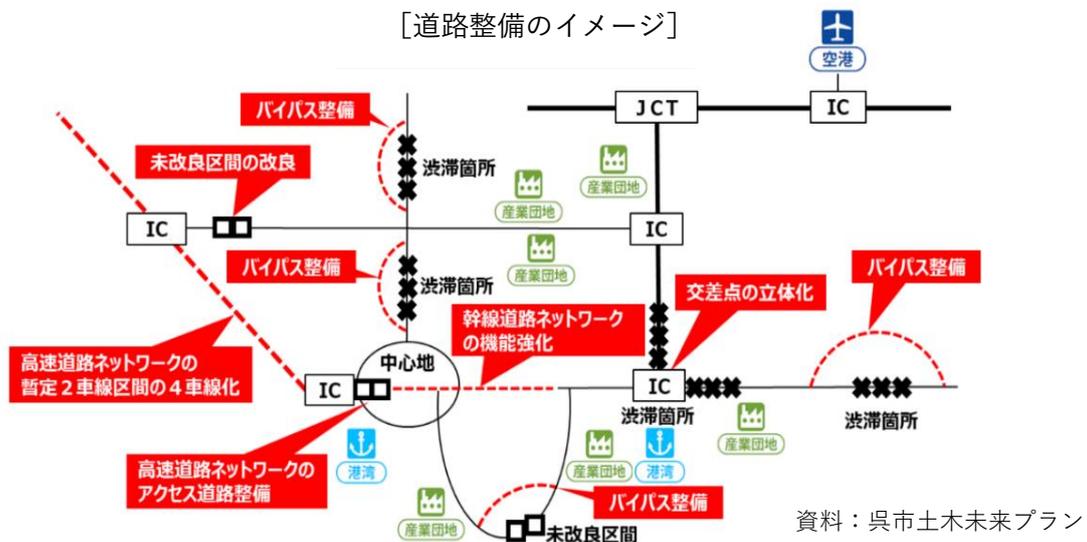
道路種別	改良済延長 ^{※a} (m)	未整備延長 ^{※b} (m)	計 (m)
自動車専用道路	0	17,540	17,540
幹線街路	62,470	46,600	109,070
区画街路	6,150	390	6,540
特殊街路	1,700	0	1,700
計	70,320	64,530	134,850
	52%	48%	100%

※a 改良済延長は、道路用地が計画幅員のとおりに確保されており、一般の通行の用に供している道路延長をいいます。

※b 未整備延長には、暫定2車線で供用している道路延長も含まれます。

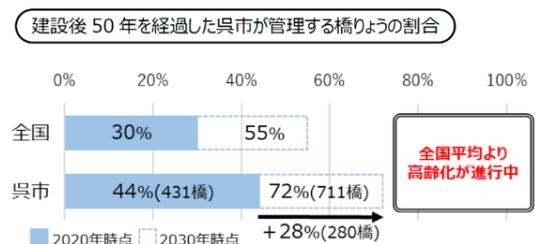
都市間・地域間を結ぶ道路は、都市間連携の強化や広域的な交流の促進、物流の円滑化など地域産業の持続的な発展に寄与するとともに、災害発生時における人や物資の輸送経路としての重要な役割を担っており、現在、広島呉道路の4車線化や東広島・呉自動車道の機能強化といった高速道路ネットワークの強化、また、主要地方道呉平谷線の整備の促進に向けた取組を行っています。

[道路整備のイメージ]



<都市基盤施設^{※3}の老朽化が進んでいます>

呉市の都市基盤施設については、整備から長期間経過しているものが多く、老朽化が進んでいる状況にあります。



資料：呉市土木未来プラン

※2 都市計画道路：都市計画法に基づき、地域内の円滑で安全な交通を確保するなどの観点から定める道路

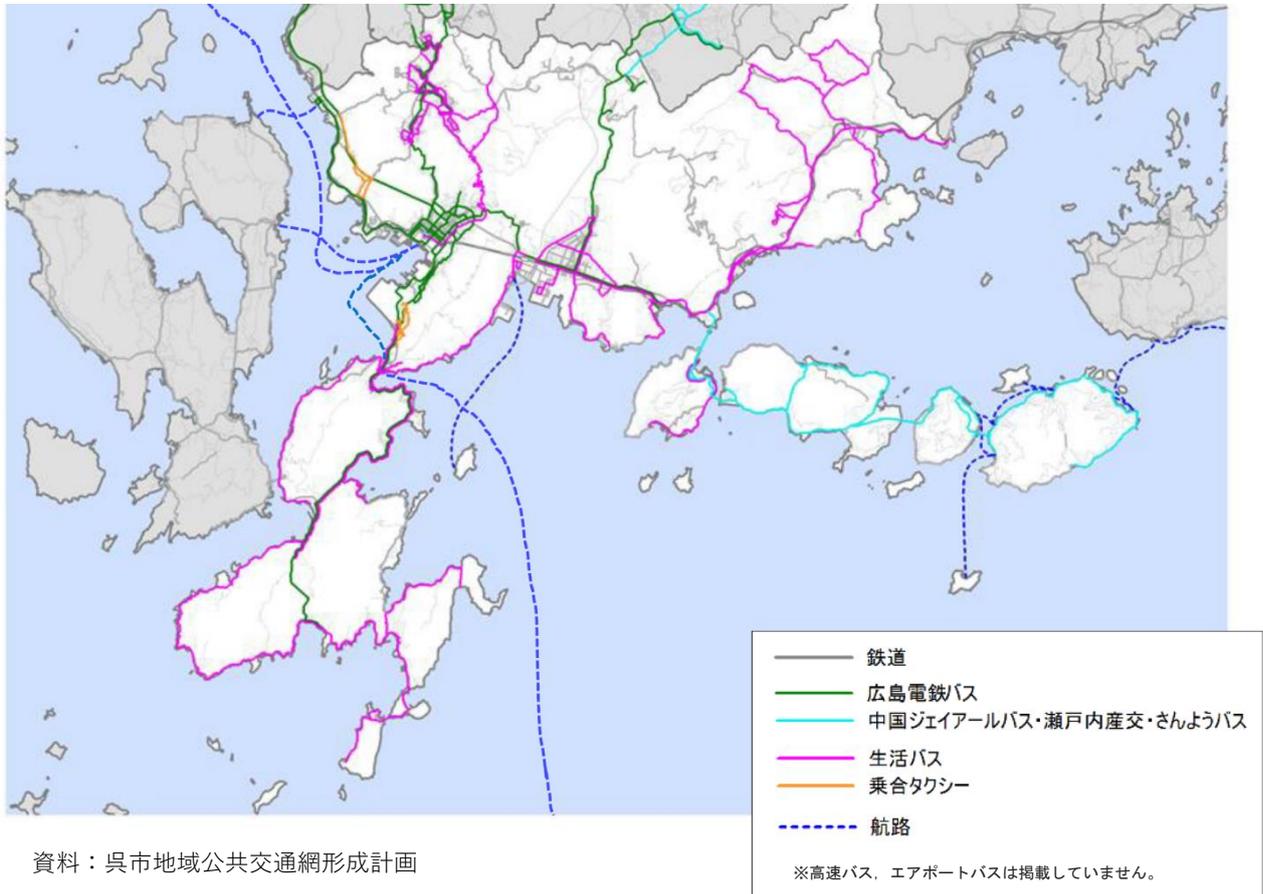
※3 都市基盤施設：道路や鉄道、河川、上下水道などの生活・産業基盤や病院、学校、公園などの公共施設

(5) 都市交通

<多様な交通モードによって公共交通網を形成しています>

呉市の公共交通網は、鉄道、高速バス、エアポートバス、路線バス、生活バス、乗合タクシー、タクシー、航路で構成されています。

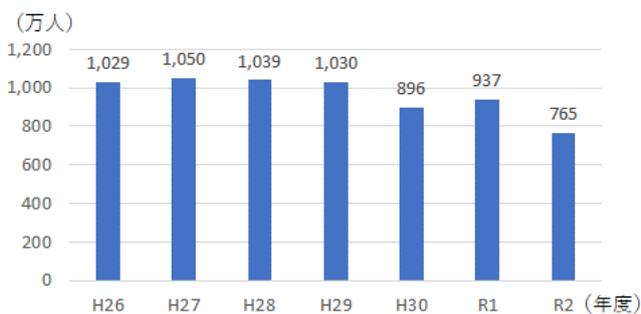
[呉市の公共交通網]



<公共交通の利用者は減少傾向にあります>

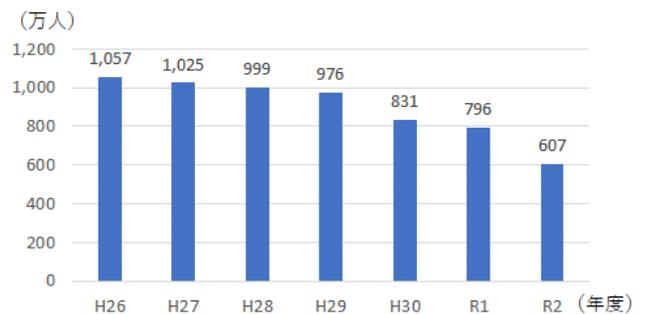
JR呉線の年間乗車人員及びバス（広島電鉄株式会社の呉市域路線バス、呉市生活バス、乗合タクシー）の年間の乗車人員は、減少傾向にあり、近年では平成30年7月豪雨災害や新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が更に減少しています。

[JR 呉線の年間乗車人員の推移]



資料：JR 西日本広島支社資料

[バスの年間乗車人員の推移]



資料：広島電鉄株式会社資料及び呉市資料を基に作成

(6) 災害

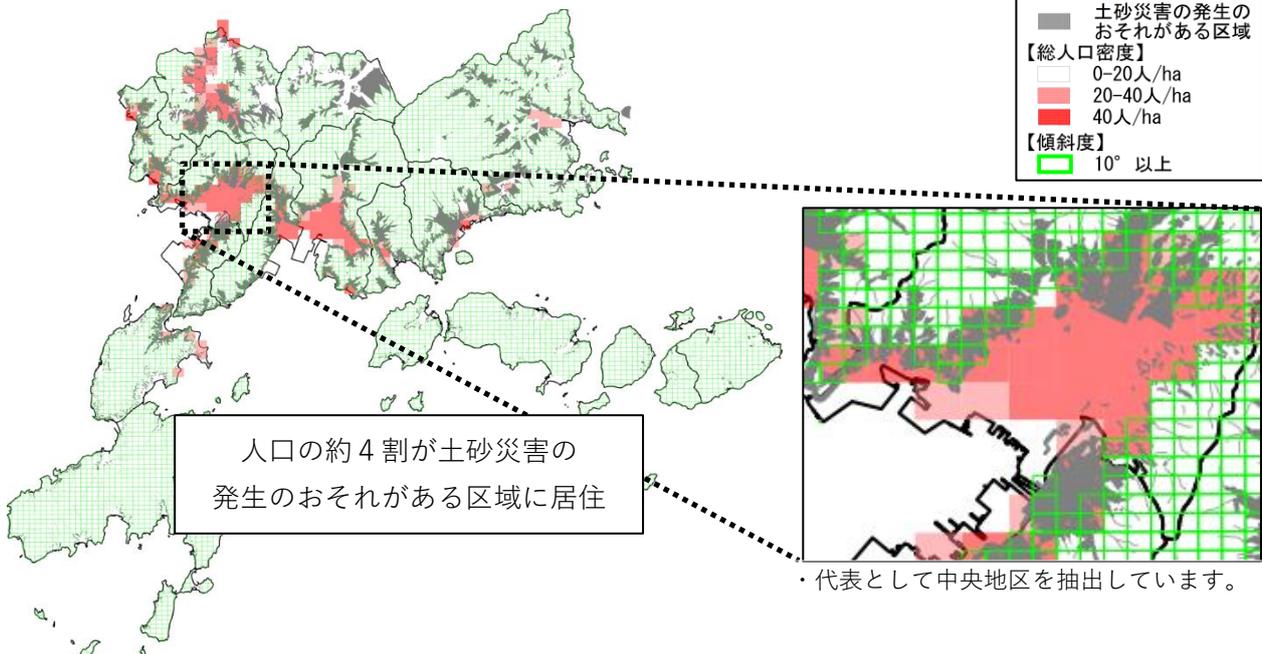
<人口密度の高い地域と災害リスクの高い区域との重複が見られます>

人口密度の高い中心市街地や斜面市街地に、土砂災害警戒区域等が指定され、沿岸部では津波災害警戒区域と高潮による浸水想定区域、河川沿いにおいては洪水による浸水想定区域が分布しています。

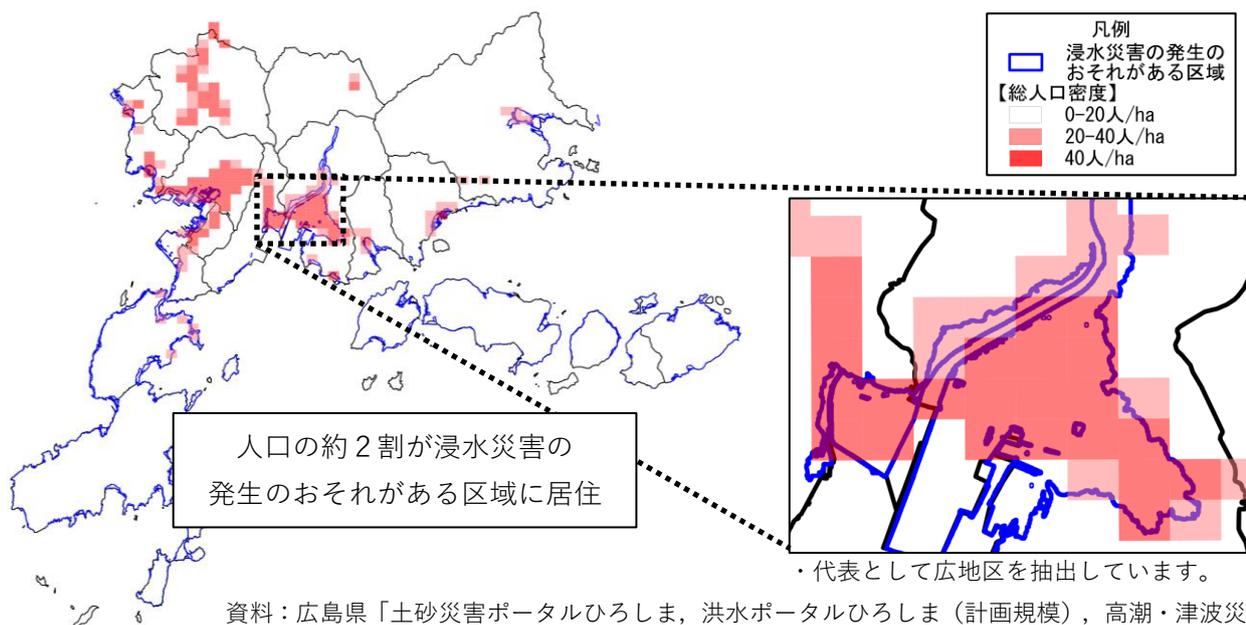
人口の約4割が土砂災害の発生のおそれがある区域に、約2割が浸水災害の発生のおそれがある区域に居住しています。

このような状況に対し、砂防・治水などの防災対策事業を始めとして、市街化区域^{※4}内の土砂災害特別警戒区域を市街化調整区域^{※5}に編入する取組や水災害に対する流域治水^{※6}の取組を進めています。

[人口密度（平成27年）と土砂災害の発生のおそれがある区域の状況]



[人口密度（平成27年）と浸水災害の発生のおそれがある区域の状況]



資料：広島県「土砂災害ポータルひろしま、洪水ポータルひろしま（計画規模）、高潮・津波災害ポータルひろしま」、総務省「平成27年国勢調査」

※4 市街化区域：都市計画法の規定により定める区域で、優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域
 ※5 市街化調整区域：都市計画法の規定により定める区域で、市街化を抑制すべき区域
 ※6 流域治水：河川流域のあらゆる関係者が協働し、流域全体で様々な取組を行う対策

(7) まちづくり活動

<市民協働・官民連携によるまちづくりに取り組んでいます>

まちづくりは行政だけではなく、住民などの理解や協力・支援がなければ実現は困難です。また、近年では、民間の自主的なまちづくり活動を支援し、民間のノウハウを活用する官民連携まちづくりの取組が重要となっています。

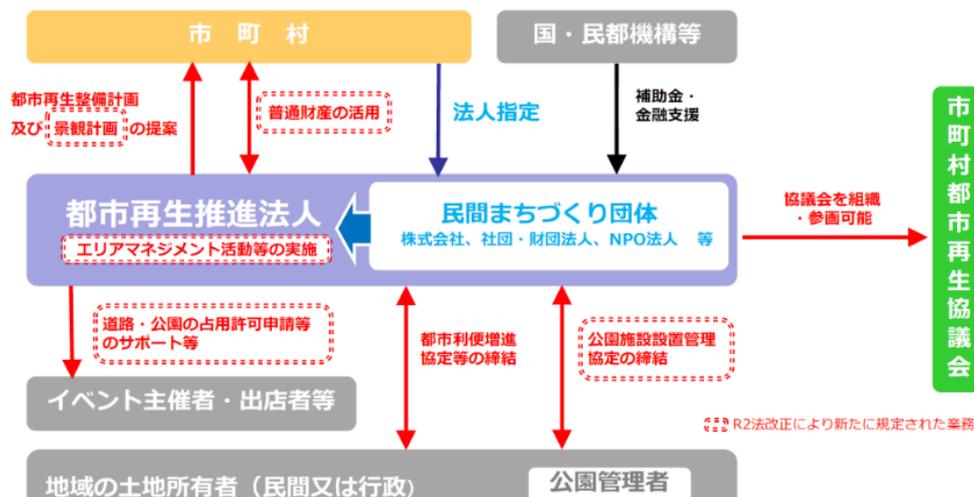
呉市では、「呉市市民協働推進条例」を制定し、市民、市民公益活動団体、事業者及び市役所が対等な立場で協力し、相互に補完し合いながらパートナーシップによる市民協働のまちづくりに取り組んでおり、公園整備に当たり、市民の意見を取り入れるワークショップを開催するなど、市民との協働に取り組んできました。

また、民間の自主的なまちづくりをさらに促進していくため、地域のまちづくりの中核的な存在としてエリアマネジメント活動を展開することが期待される都市再生推進法人^{※7}の指定や多様なPPP^{※8}／PFI^{※9}手法の活用を検討など、官民連携によるまちづくりに取り組んでいるところです。

[公園づくりワークショップ]



[都市再生推進法人のイメージ]



- ★ 法に基づく指定を受けることにより、団体の信用度・認知度の向上及び公平性の担保
- ★ 指定された団体は、まちづくり活動のコーディネーターや推進主体としての役割を期待

資料：国土交通省「官民連携まちづくりの手引き」

- ※7 都市再生推進法人：都市再生特別措置法の規定に基づき、地域のまちづくりを担う法人として、市町村が指定する法人
- ※8 PPP：パブリック・プライベート・パートナーシップ。Public Private Partnershipの略。公共施設等の設計、建設、維持管理、運営等を行政と民間が連携して行うことにより、民間の創意工夫等を活用し、財政資金の効率的な使用や行政の効率化を図りながら公共サービスの提供を行う手法
- ※9 PFI：プライベート・ファイナンス・イニシアティブ。Private Finance Initiativeの略。公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法

2.3 都市づくりに対するニーズ

(1) アンケート調査の概要

都市づくりは、市民の都市生活や都市活動のみならず、観光や移住施策といった呉市を訪れる人や呉市に携わる人など呉市外に居住する方への対応も含めて総合的に推進していく必要があります。そこで、都市計画マスタープランの改定に当たり、市民及び呉市外居住者の呉市に対する意見や都市づくりに対する考えなどについて、今後の都市行政運営の参考資料とするために次のとおり調査を実施しました。

調査	対象	調査方法・期間	有効回収数
①市民アンケート調査	住民基本台帳から無作為に抽出した満16歳以上から69歳未満の市民4,000人	郵送による配布・回収 (令和3年8月4日～23日)	1,478票 (回収率：約37.0%)
②市外居住者アンケート調査	市外居住者 (Facebookやポスター掲示による協力依頼)	GoogleFormsを活用したオンライン調査 (令和3年10月15日～11月15日)	108票

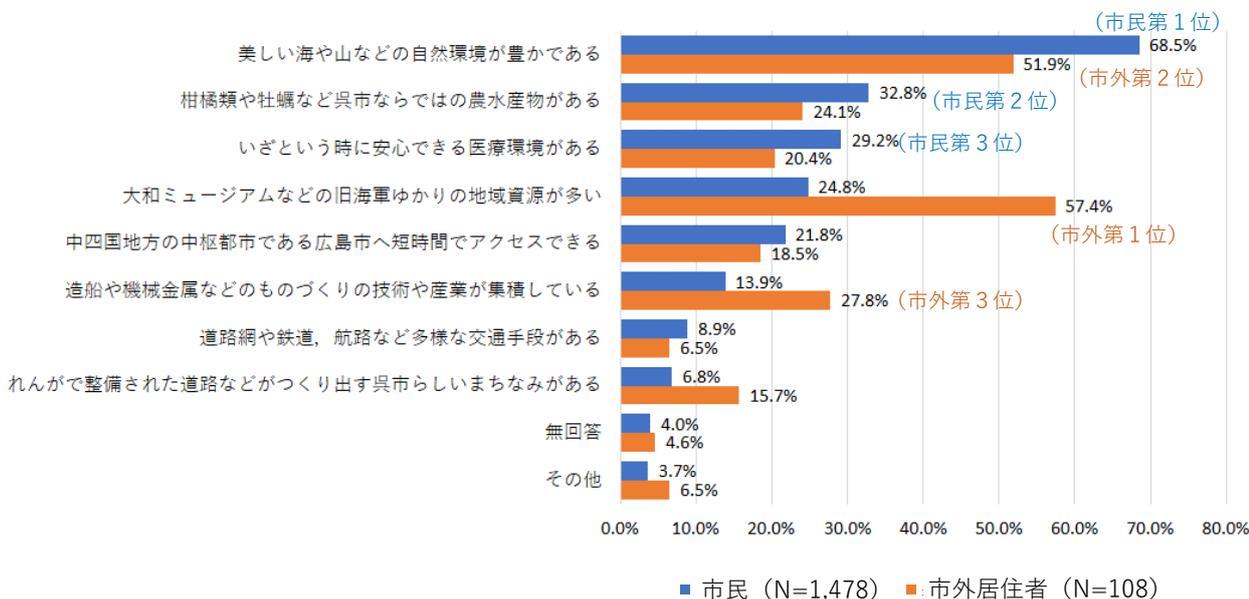
(2) アンケート調査の結果

①呉市の良いところ

＜市民、市外居住者のいずれにおいても豊かな自然環境が、また、市外からは、旧海軍ゆかりの豊富な地域資源が呉市の良いところと捉えられています。＞

呉市の良いところとして、市民、市外居住者のいずれにおいても、「美しい海や山などの自然環境が豊かである」の評価が高くなっています。また、市民からは、「呉市ならではの農水産物がある」や「いざという時に安心できる医療環境がある」が次いで高い評価となっています。また、市外居住者からは、「大和ミュージアムなどの旧海軍ゆかりの地域資源が多い」に対する評価が最も高く、呉市の重要なセールスポイントであると考えられます。

[呉市の良いところ]



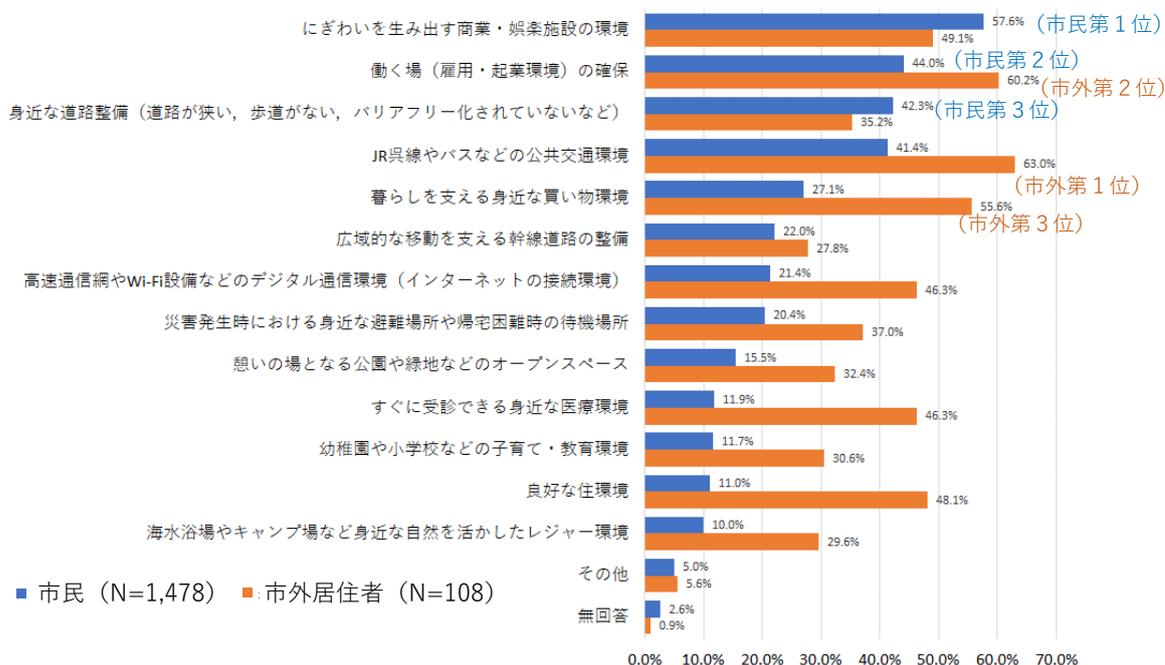
②呉市の暮らしの中で不足するもの、充実を望む環境

＜にぎわいを創出する施設の環境や交通環境、また、雇用・起業環境の充実が望まれています＞

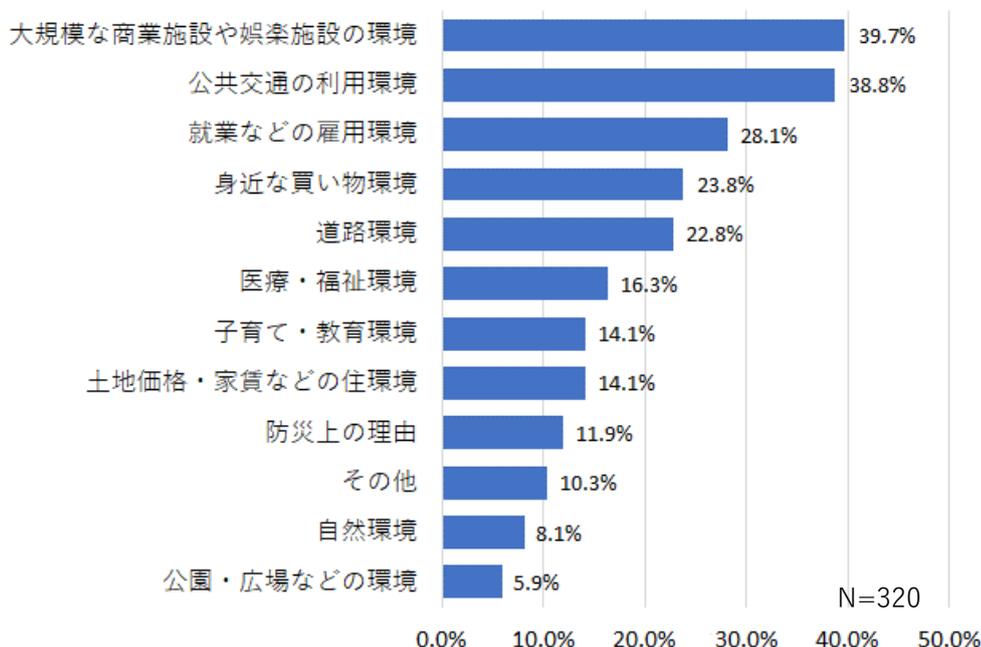
調査の結果より、市民からは、「にぎわいを生み出す商業・娯楽施設の環境」が不足しているという声が多く、市外居住者からは、「JR呉線などの公共交通環境」の充実を望む声が多くなっています。また、両者とも「働く場（雇用・起業環境）の確保」が次に多くなっています。そのほか、市民からは、身近な道路整備や買い物環境の充実が望まれています。

このことは、市外へ移りたいと思う理由（市民アンケート調査）の上位3位までの回答と一致しています。

[呉市の暮らしの中で不足しているもの、充実を望む環境]



[居住している地域から市外へ移りたいと思う理由（市民アンケート調査）]



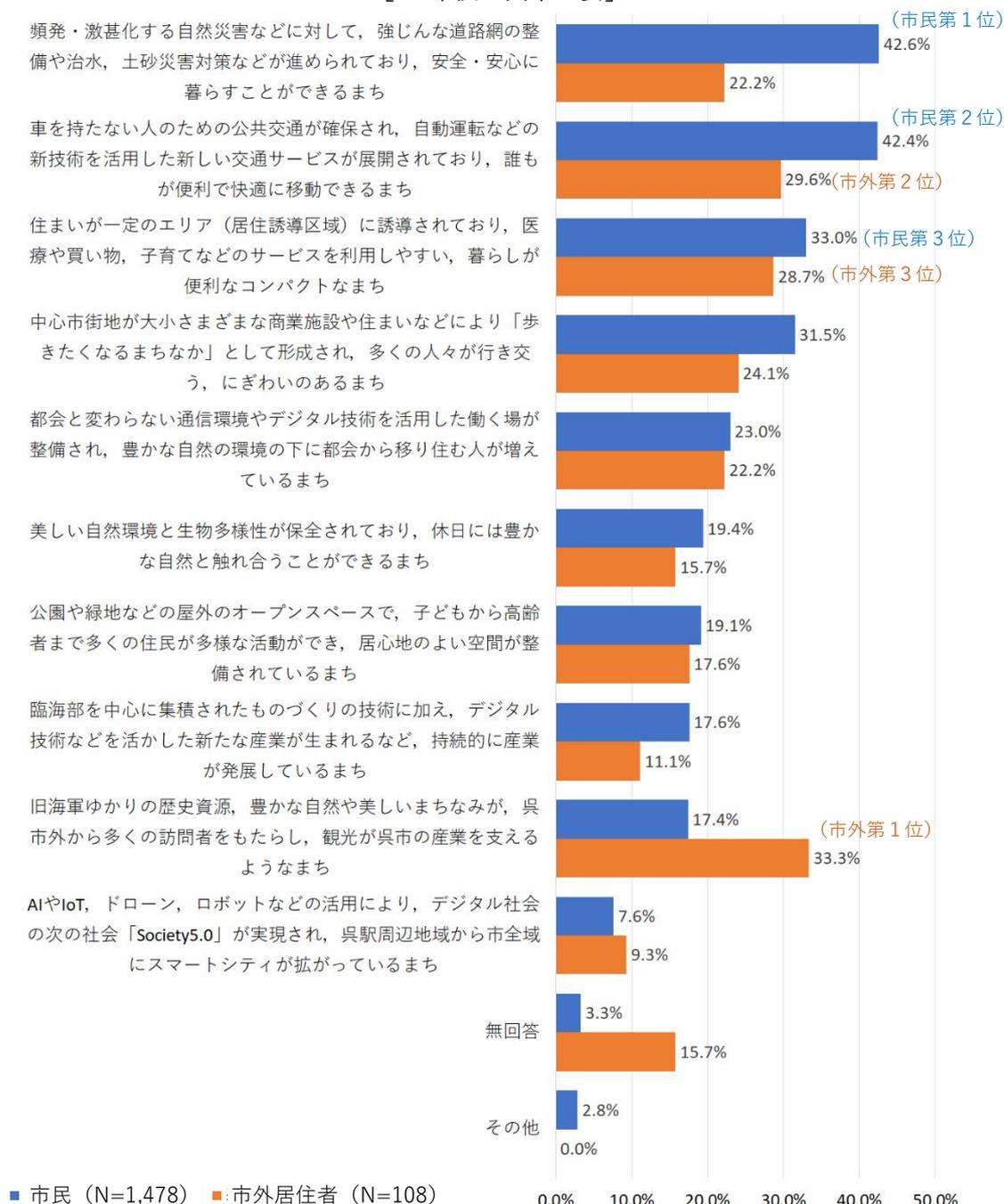
③20年後の呉市の姿

＜市民からは防災まちづくりに、市外居住者からは観光まちづくりに期待が寄せられています。加えて「コンパクト＋ネットワーク」の都市構造の構築に関連するまちづくりが望まれています＞

20年後の呉市の姿として、市民からは災害などに対して安全・安心なまちづくりに期待する声が高く、市外居住者からは、観光まちづくりに対する期待が寄せられています。

また、市民、市外居住者のいずれにおいても、都市構造の基本的な考え方である「コンパクト＋ネットワーク」に関連する「誰もが便利で快適に移動できるまち」と「暮らしが便利なコンパクトなまち」への評価が次いで高くなっています。

[20年後の呉市の姿]



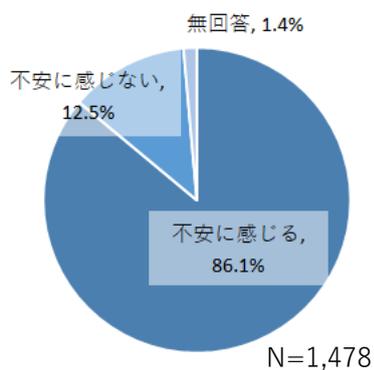
④人口減少に対する考え（市民アンケート調査結果より）

＜都市的サービスの維持に不安を感じており、人口減少の抑制対策として定住対策や生活サービス施設の維持・誘導に向けた取組などが必要であると考えられています＞

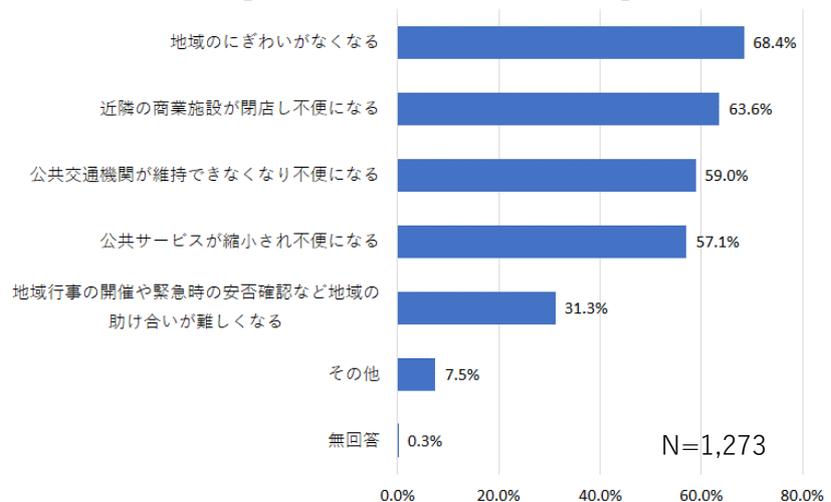
人口減少に不安を感じる市民は大変多く、その理由として、買い物環境や公共交通の利用環境などの都市的サービスの維持が困難となることが挙げられています。

また、人口減少の抑制対策として、「空き家などの活用による若者や移住者の定住支援」や「生活サービス施設の維持・誘導」、「雇用環境の創出」が必要であると考えられています。

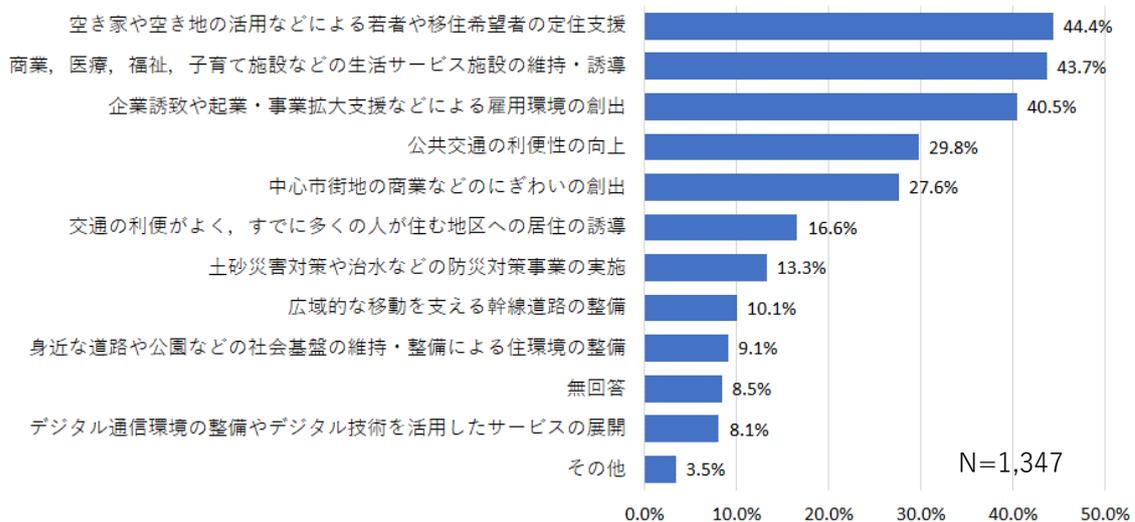
[人口減少などに対する考え]



[人口減少を不安に感じる理由]



[人口減少を抑制するための取組]



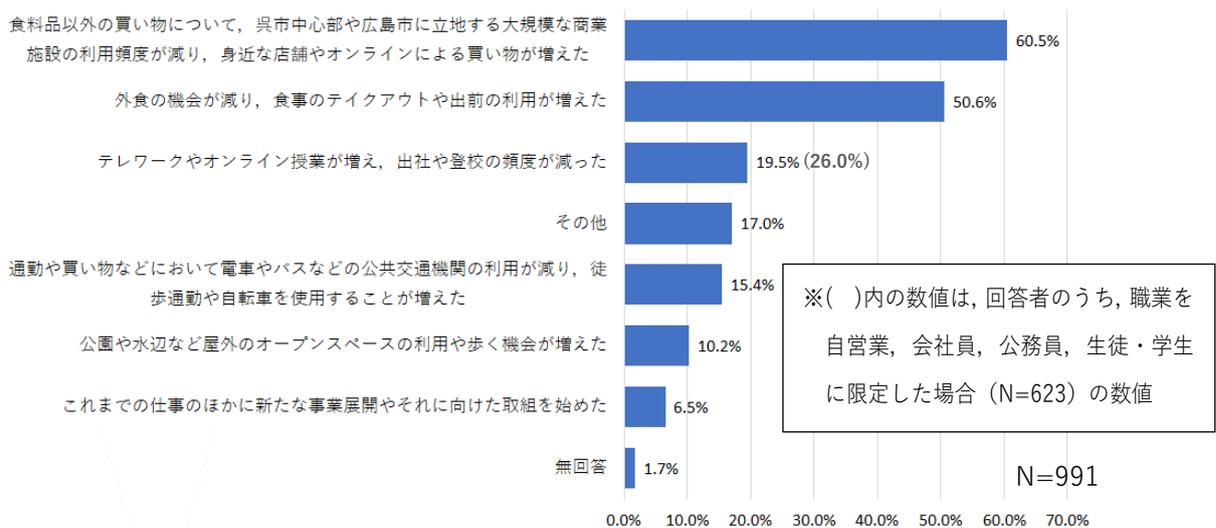
⑤新型コロナウイルス危機に伴う生活の変化（市民アンケート調査結果より）

＜テレワークなどに対応した通信環境の整備や住宅地の近くへの店舗の誘導などが望まれています＞

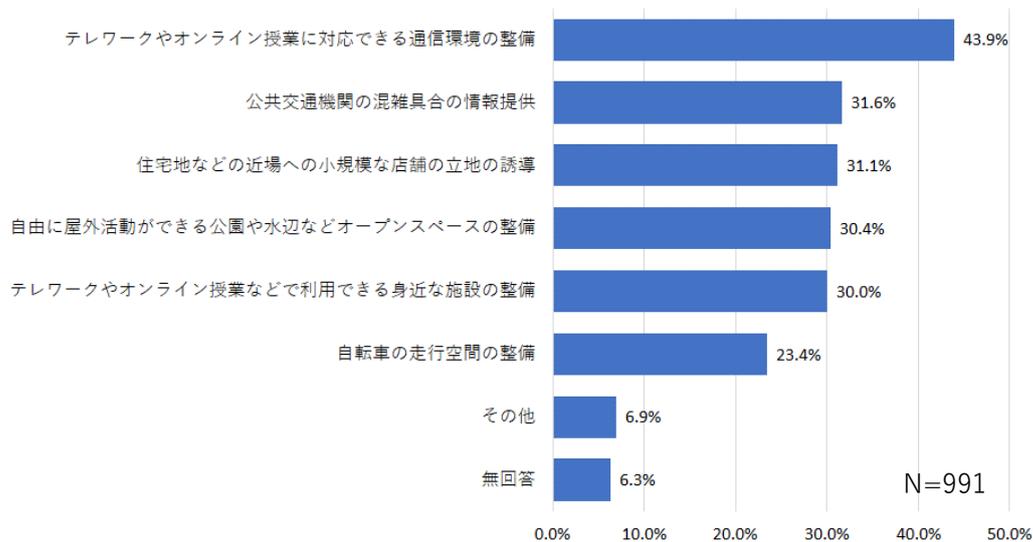
新型コロナウイルス危機に伴う生活の変化として、身近な店舗での買い物やテイクアウトの利用機会の増加、また、テレワークによる出勤頻度の低下などが多い状況です。

また、新型コロナウイルス危機を経験した上で重要と考える都市整備として、テレワークなどに対応できる通信環境の整備や住宅地近くへの店舗の誘導や公園などのオープンスペースの整備などが望まれています。

[新型コロナウイルス危機に伴う生活の変化]



[新型コロナウイルス危機を経験した上で重要と考える都市整備]



2.4 現行計画の振返り

現行都市計画マスタープラン（平成29年3月）を分野（土地利用，交通体系，都市施設，防災，都市環境）別に振返りを行いました。

土地利用	<p>(1) 取組の方向性</p> <ul style="list-style-type: none">コンパクトで持続可能，安全・安心な暮らしを実現する土地利用の推進都市のにぎわいと活力を生む土地利用の推進 <p>(2) これまでの主な取組</p> <ul style="list-style-type: none">コンパクトシティの実現に向け，呉市立地適正化計画（令和2年9月）を策定旧そごう呉店跡地を含めた，呉駅周辺地域総合開発の推進阿賀マリノポリス地区や苗代工業団地への企業立地の推進
交通体系	<p>(1) 取組の方向性</p> <ul style="list-style-type: none">拠点間を効率的・効果的に連絡し，暮らしの利便性を向上させる交通体系の構築経済活動を支援する交通体系の構築 <p>(2) これまでの主な取組</p> <p><道路></p> <p>① 幹線道路や生活道路の整備を推進</p> <ul style="list-style-type: none">休山新道（4車線）供用開始（平成31年3月）や東広島・呉自動車道阿賀インターチェンジの立体交差化（令和4年3月），広島呉道路の4車線化，主要地方道呉平谷線の整備促進広駅前地区^{※1}の都市計画道路の整備推進や道路改良と合わせたバリアフリー化 <p>② 橋りょうなどの更新や補修を進めるとともに，道路に係るマネジメントの基本方針（呉市土木未来プラン（令和3年4月））を策定</p> <p><公共交通></p> <ul style="list-style-type: none">持続可能な公共交通ネットワークの形成に向け，呉市地域公共交通網形成計画（令和2年9月）を策定呉駅周辺地域を総合交通拠点として捉え，交通まちづくりの起点となる総合開発の推進
都市施設	<p>(1) 取組の方向性</p> <ul style="list-style-type: none">豊かな暮らしを支える施設整備や長寿命化の推進民間活力による施設管理や空間活用の推進 <p>(2) これまでの主な取組</p> <ul style="list-style-type: none">公園施設や上・下水道施設などの施設の更新社会実験（クレテリア）の実施など，公共空間の活用策の検討河川や公園に係るマネジメントの基本方針（呉市土木未来プラン（令和3年4月））を策定
防 災	<p>(1) 取組の方向性</p> <ul style="list-style-type: none">人命保護を最優先とした総合的な防災まちづくりの推進地域防災力の向上に向けた民間との連携 <p>(2) これまでの主な取組</p> <ul style="list-style-type: none">平成30年7月豪雨災害からの復興を図るとともに，国土強靱化地域計画（令和3年3月）を策定し，砂防施設などの整備促進や建築物の耐震改修の促進などに取り組み，ハード・ソフトの両面から総合的な防災対策を実施
都市環境	<p>(1) 取組の方向性</p> <ul style="list-style-type: none">環境負荷の低減と郷土愛を醸成する都市環境づくりの推進交流を生む景観づくりの推進 <p>(2) これまでの主な取組</p> <ul style="list-style-type: none">家庭用燃料電池の導入支援など省エネルギー対策を実施呉市景観条例や呉市屋外広告物条例によって，景観形成に向けた誘導

※1 広駅前地区：平成17年3月に都市計画を廃止した広駅前土地区画整理事業の区域